

『神宮御師資料』に基づく御師配札圏域のGISツールによる可視化 —伊勢講組織化の分析に向けて—	慶應義塾大学法学部 笠井賢紀 kasa@keio.jp
--	--------------------------------

0. 自己紹介 (『栗東市の左義長からみる地域社会』)

1. 伊勢講

- 1-1. 伊勢講と御師：伊勢参宮者（地域社会）と伊勢の御師は師団関係を結ぶ
- 1-2. 御師制度の廃絶：明治4年御師制度の廃止＝伊勢参宮の近代化への契機

2. 資料 および 3. データ整備

<空間情報を持った統計等データ>

『神宮御師資料』

明治12年ごろ ①旧師職取調帳（外宮篇）

－御師廃止時点の配札情報：郡レベルの情報が入手可能も記入法混在（村数、戸数、…）

安永6年ごろ ②師職諸国旦那家数改覚え

－①の約100年前の配札情報：「軒数」で統一も国レベルまでの情報に留まる

◆データベース化：氏名、御師郷（山田十二郷）、家格、（御祓）銘、配札情報等を格納
※本発表では①については「国ごとの配札の有無」

②については「国ごとの配札の有無」「国ごとの配札軒数」のみ利用

[分析用] 明治5年時点の戸数データを筑波大学村山祐司研究室のものを利用

－①は明治4年御師廃絶時点の情報と思われるため、それに最も近い年

<境界データ>

明治初期の国・郡境界データとして「郡地図研究会」制作の明治2年版を利用

－明治22年版もあるが明治4年に近いほうを選んだ

※分析用人口データと境界データに合わせ、御師資料の国/郡情報は調整した

4. 可視化と分析

4-1. 御師人数（安永6年）

4-2 a. 御師人数（安永6年）+戸数（明治5年） b. 戸数による正規化

⇒ 本州全土に幅広く分布するも、伊勢周辺（三重・愛知・滋賀）に偏重

4-3. 御師人数（明治12年）

4-4. // の戸数（明治5年）による正規化

⇒ 100年前と分布傾向は変わらず（国数は2割増）

4-5. 配札軒数（安永6年）

4-6. // の戸数（明治5年）による正規化

⇒ 伊勢周辺は軒数少ない／東北・四国で多い地域

4-7. 配札軒数（安永6年）の変動係数

⇒ 配札軒数の多い地域は少数御師による影響

★ 「配札を担当する御師が多い」

≠ 「大麻配布や伊勢講の活動が盛ん」

5. まとめと展望

- データベース+GISのさらなる活用
 - 特に御師郷ごとの分布特徴や家格との関係
- 異なる分析視点の追加
 - 御師家の系譜、御師銘の譲渡遍歴など

郷	安永6年ごろ			明治12年ごろ		
	人数	銘数	国数	人数	銘数	国数
1	5	8	7	12	18	22
	7	20	16			
	13	19	21	20	12	37
	15	24	25	25	30	45
2	37	53	46	42	66	51
3	43	62	46	30	55	45
4	37	53	33	35	44	44
5	26	27	27	27	36	31
6	21	24	31	17	19	31
	17	21	23	19	29	39
7	8	11		26	39	28
8	71	75	51	39	66	51
9	29	37	30			
10	22	23	32	25	40	49
11	25	28	29	31	31	34
	34	33	33	42	54	49
	11	13	21	25	34	12
12	13	17	5	9	10	11
計	434	548	476	424	583	579